

令和6年3月5日

マレーシア出張報告書

氏名：今泉太晟

所属：九州大学 理学府 地球惑星科学専攻 宇宙地球電磁気学研究室（修士2年）

滞在先：マレーシア（ペナン、ジョホールバル、クアラルンプール）

2024年の2/18-2/24の7日間、マレーシアに滞在し磁力計設置地点であるペナン、ジョホールバルにて磁力計のメンテナンス、クアラルンプールにて磁力計設置候補地の視察を行なった。以下に、各地点で行った活動について報告を行う。

ペナン：ペナン観測点は、2/19訪問時点で磁力計の元電源側のスイッチがオフになっており磁力計の電源が入ってなかった。GPSアンテナの固定も外れていた。ここでは、ロガーハット、磁力計アンブ周辺の掃除を行い、またデータロガーの取り外しも行った。外れていたGPSアンテナの固定を行い、日本から持ち込んだデータロガーを接続後、データテストのために一晩稼働させた。翌日磁力計データのチェックを行い、磁力計のネットワークへの接続、磁力計センサーの調整等を行った。問題なく動作することを確認できた後、ジョホールバルへと移動した。



ジョホールバル：ジョホールバル観測点では、磁力計のGPSロールバック修正、磁力計センサーの調整を行った。その後磁力計データ転送の問題を復旧し、データの品質チェックを行なった。翌日、磁力計データを保存するCFカードデータの読み込みと可視化について、現地スタッフへと指導を行った。その後クアラルンプールへと移動した。



クアラルンプール：クアラルンプールでは、新規磁力計設置候補地の視察と選定を行なった。現地カウンターパートと共に候補地2地点の視察を行った上で候補地の選定を行なった。その後、磁力計設置に関する必要設備や、それに伴う必要経費についての試算を行い、新規磁力計設置について議論を進めた。上記の作業を完了後、クアラルンプール国際空港へと移動し日本へと帰国した。



本出張を通して、マレーシア各地点の磁力計の運用状況を改善し、磁力計のメンテナンスを行った。また新規設置点を決定するに至った。現地研究者との交流を通して今後の磁力計設置点の保全と持続的稼働の一助となれたのではないかと感じた。